

理学専攻 M2 アンケートの集計と分析

このアンケートは平成26年3月に修了した自然科学研究科理学専攻の大学院生を対象としたアンケート調査である。アンケートの回答結果は、理学専攻および理学科の教育システムの改革や改善向上のために活用する。全対象院生からのアンケート回答回収を目指して、各研究室にアンケート用紙必要部数を封筒に封入して配布し、以下提出期限までに教務担当事務まで提出依頼した。

提出期限: 2014年2月7日(金)

提出場所: 理学系教務係

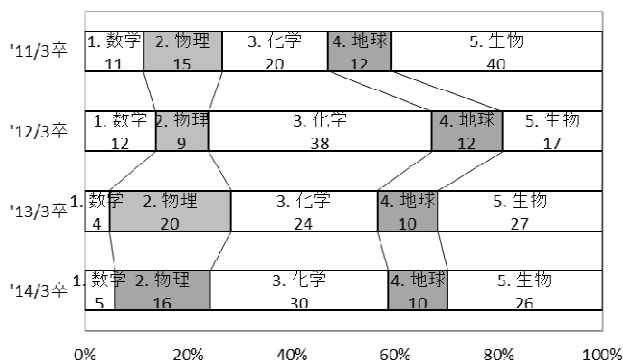
結果、88名から回答を得ることができた。回収率は94%であった。この報告書において回収したアンケートデータの集計とその分析を行った。

あなたの研究分野は何ですか

- 1. 数学 2. 物理学 3. 化学
- 4. 地球科学 5. 生物学

アンケート回答者数の分野ごとの数値である。

昨年度より化学コースの院生の数が増えている。
一方、数学専攻の院生数は2年続けて少ない。



A. 入学時の志望理由について

(A1) 入学時に熊本大学大学院自然科学研究科理学専攻を選んだ理由を記述して下さい。

回答・意見など：81件

枠内はこの質問に対する全意見。以下の枠も同様。

- 熊本大学理学部理学科数理科学プログラム所属のときの研究の指導を行ってくださった教員のもとで研究がしたかった。教員免許状の専修免許がとりたかった。
- 学部生のときから数学を専攻しており、学部時代に学習したことを続けて大学院でも学びたいと思ったから。
- 学部のときに数学を専攻しており、もっと深く数学について学びたいと思ったから。
- 学部時の研究を続けることができるため。
- もっと深く学びたかったから。
- 研究を進めるため
- 自身が行っている研究をもっと勉強して発展させたかったから。あと、もっと遊んでいたかったから。
- 学部時に指導していただいた教官の元で研究を継続したかったため。
- 学部4年間では研究時間が足りず、物事の心理についてより深く学びたいと思ったため。
- 学部4年生で研究した内容を引き続き研究したかったから。
- 学部4年生の時に所属していた研究室での研究を続けたいと考えたため。
- 学部のとき行っていた研究を続けたかったから。
- 研究の領域で、やってみたい領域の研究ができる専攻だったから。
- 物理を学びたいと思ったため。
- 熊本大学理学部を卒業し、そのまま今の研究を続けて知識を深めたいと思ったから。
- B4時に学んだ分野をもっと深く学びたいと思ったから。
- 学部時に行っていた研究が続行できるため。
- 物理が好きで専攻しました。
- 熊大理学部での研究をより深めるため。
- 学部時代に研究していた事を発展させたかったから。
- より深い知識を持った高校教師になりたいと思ったため。
- 学部時代の研究がおもしろかったから。
- より深く専門知識を身につけたかったため。
- 学部時代に熊本大学で学んでおり、実験や勉学の環境に満足していたので、大学院でも有意義な生活が送れると思ったから。
- 自分の今までの研究を継続したい。
- 学部時の研究を継続したかったため。
- 学部での知識では、将来の夢を達成するためには足りず、進学して学びを深めたいと思ったから。
- 研究を続けるため。

- 学部生の時から行っている研究を継続して行いたかったため。
- 化学が好きだから
- 現在の研究室で研究を続けたかったから。
- 研究を深くやってみたいと思ったため。
- 化学について、特に錯体化学、有機化学についての見識を深めたかったから。
- 自分が学部時代にしていた実験や分野を深めたかったから。
- 大学で化学を専攻していたため。
- 大学在席時理学部理学科に所属しており、大学 4 年生で携わっていた研究を大学院でも続けて関わりたかったから。
- 今の研究室で勉強したかった為
- 学部が化学だから。
- 学部の 4 年次の時と同じ研究室で研究したかったから。
- 学部生のときに行っていた研究を深く行い、より発展させたかったため。
- 学部からの継続した研究を行いたかったから。
- 熊本大学理学部理学科を卒業して引き続き同じ研究が継続できたため。
- 自分のやりたい研究と研究室の研究テーマが一致していたため。
- 専門分野についての知識を深めたかったため。
- 専門分野の知識を深めたかったから。
- 入学後にプログラムの選択ができるから。
- 学部時に専攻した研究内容についてより深く知りたかったから。
- 学部時代の化学コースとしての専門教育 2 年間では、専攻したという実力がついておらず、研究内容理解の深化や研究活動をもう 2 年取り組みたかったから。
- 理学に興味があったため。
- 高校在学時から、地学（地球環境）に興味があり、自然科学が学べる熊本大学を選びました。
- 学部も熊本大学で、担当指導教官の元でさらに研究がしたかったから。
- ・ 大学時の学部学科が大学院での専攻と一致しているため。 ・ 卒論を発展させたいから。
- 高校時代に受けた地学の出前授業が印象に残っていて、学びたいと思ったから。
- 熊本大学での研究を続けたかったため。
- 卒業研究がおもしろくなって続きがやりたいと思ったから。
- 卒業研究時の研究を継続して進めていきたいと考えたから。
- 学部での研究をより深めたいと考えたため。また、そのための環境が整っていたため。
- 研究を深く追求したかったから。
- 現在所属している研究室の研究分野に興味を持っていたため。
- 大学も熊本大学だったので、学部の時の研究を続けながら、修士を取得するため。
- 学部のときとそのままの研究室で研究がしたかったから。
- 学部での研究をもっと続けたいと思ったため。また、もっといろいろな実験をしたかったため。
- 高校の時に理系を選択したため。
- 専門性を磨き、研究職で働きたいと思った為。
- 研究が楽しく、続けたいと思ったため。

- 大学 4 年のときに取り組んだ卒業研究の内容が面白く、今後も引き続き同じテーマで研究を行いたいと考えたため。
- 卒業研究のテーマを引き続き進めたかったためです。また、生命科学の高度な専門知識を身につけたいと思って選びました。
- 理学部理学科の時に所属した研究室で、さらに研究を進めたかったから。
- 学部時代、所属していた研究室で引き続き研究を行いたいと考えたため。
- 研究活動を続けたいと考えたから。
- ・自然科学に関する専門知識や論理的思考力を身につけるため。 ・卒論研究を更に発展させるため。
- 生物学的プロセスを研究するための技量を培うため。
- 学部時代から熊本大学に在籍しており、同じ研究室でそのまま研究を続けるため。
- 卒業研究で十分な成果を上げることが出来なかったため、修士まで残り、結果を残したかったため。
- 学部 4 年時に行っていた研究をより深めたいと思ったから。
- 興味のあるテーマがあったので。
- 学部時に行った研究内容をさらに深く追いたいと考えたため。
- 熊大理学部だったので、そのまま進学した。
- より知識を深めたいと思ったから。
- 学部時と同じ研究内容に取り組むことができるから。
- ・水産系を専攻したかったため ・九州内での大学のレベル

多くあった意見をまとめると以下のようなになる。

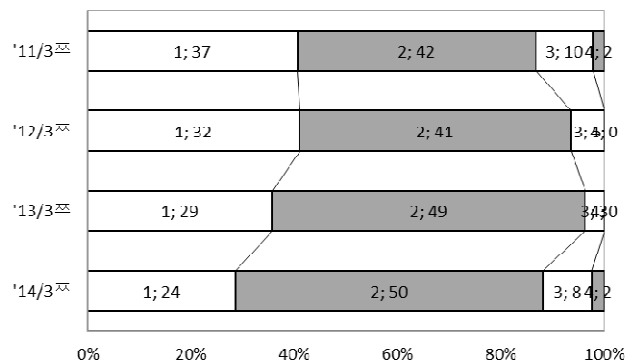
研究を深めたい（継続したい）	51 件
学部と同じ環境で学びたい	16 件
勉強したかった	11 件
学部と同じ先生に学びたい	3 件

B. 教育・研究について

熊本大学理学部理学科を卒業された人に学部での授業や制度についてお聞きします。(該当しない人は次ページの質問 (B7) に進んで下さい).

(B1) あなたの専門分野に関連する学部の専門科目は、大学院進学後の学習・研究に有益でしたか.

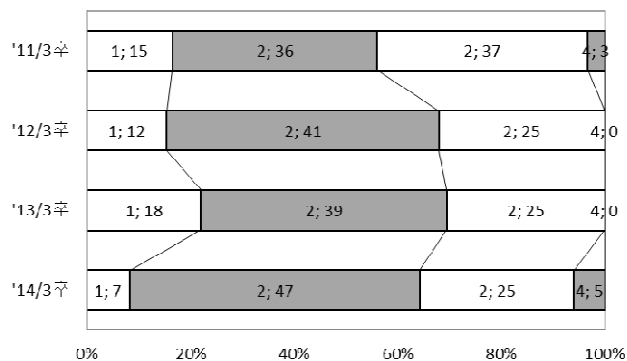
1. 非常に有益だった
 2. 有益だった
 3. あまり有益ではなかった
 4. 有益ではなかった
- 意見など : 5 件



- 基礎は大事だって良く分かりました。
- 大学院で学んでいく上での基礎を身につけることができた。
- 初めから研究に関する勉強をしたかった。
- もう少し、深く広く学びたかった。
- 大学院で専門科目の基礎が終わらないのは論外。

(B2) あなたの専門分野外の学部の専門科目(専門基礎科目も含む)は、大学院での学習・研究に有益でしたか.

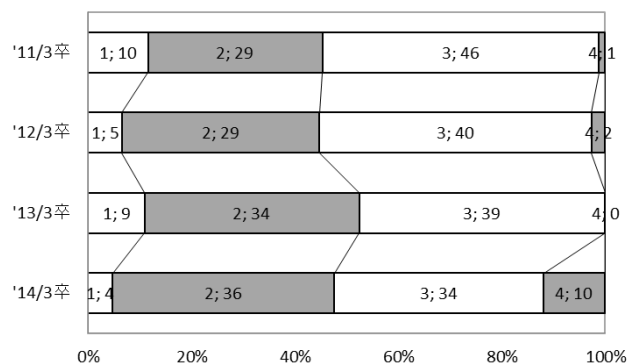
1. 非常に有益だった
 2. 有益だった
 3. あまり有益ではなかった
 4. 有益ではなかった
- 意見など : 6 件



- 必須が多すぎ。絶対に使わない分野も落としたり駄目とか無駄。
- 広い知識を身につけることができた。
- 他分野の勉強を幅広くすることができて良かった。
- 大学2年生で習った数学の知識が、化学を専攻した後使う機会があったので良かった。
- 専門科目(自分の研究)に関わるような知識を新たに知る事はそれほど多くなかった。
- 学部時に MOT を履修できれば良かった。

(B3) 教養教育での学習は、大学院での学習・研究に有益でしたか。具体的な事例があれば、自由記述欄にお書き下さい。

1. 非常に有益だった
 2. 有益だった
 3. あまり有益ではなかった
 4. 有益ではなかった
- 意見など：10件

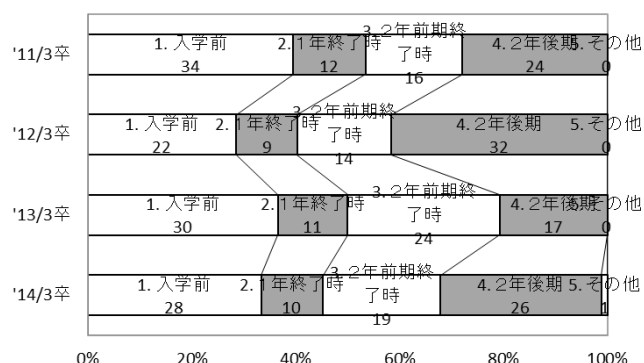


- 雑学として楽しむには良かった。
- 教養教育で学習した分野に興味を抱き、大学院での研究分野として選んだ。
- 講義が楽しかった。
- 大学院では英語を使った講義が増えるため、教養の英語が特に有益だった。
- 英語の論文を読むので、英語の授業は役に立った。
- 大学卒でゼネラリストを目指す人の場合有益だと思うが、大学院進学を考えている人にとっては、徹底して専門分野を学んだ方が、研究・専門科目を生かした職場で活躍できると思う。
- ハンセン病講座など、地域に密着した科目は興味深く、おそらく受講しなければ知らなかったのが良かったと思います。
- 特に外国語が役立った。
- プレゼンを専門的に学ぶ科目があったら良いなと思いました。
- 本を一冊読んだ方がましな授業が多い。

専門分野に関連する学部の専門科目は「非常に有益」が減少傾向にあるものの、「ある程度有益」も含めると「有益」が9割近くを占めている。一方、専門分野外の専門科目は、「非常に有益」がここ4年で最低になり、「有益ではなかった」が最高となっている。また教養教育に関しても、「非常に有益」だったとする割合が減少し、「有益ではなかった」が増えている。今後の推移を見守る必要がある。

(B4) 理学科での専門分野はいつ決めましたか。

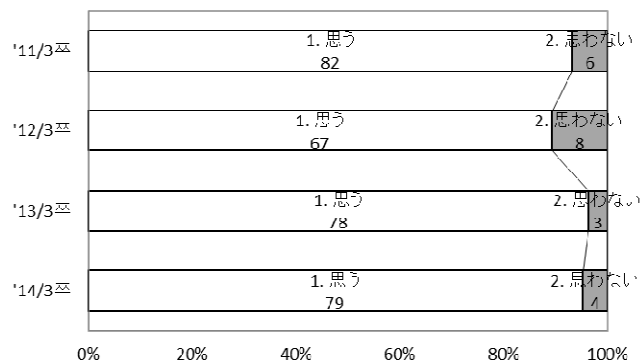
1. 入学前
 2. 1年終了時
 3. 2年前期終了時
 4. 2年後期
 5. その他
- 意見など：4件



- 物理一択でした。
- 高等学校の先生の影響。
- 最終的に、先生に直接伺ったりして決めました。
- 化学のコース進学に実験が必修と知らず、しゅしゅ生物コースに来た。

(B5) 今かえりみて、専門分野の選択は自分にとってよかったですか。

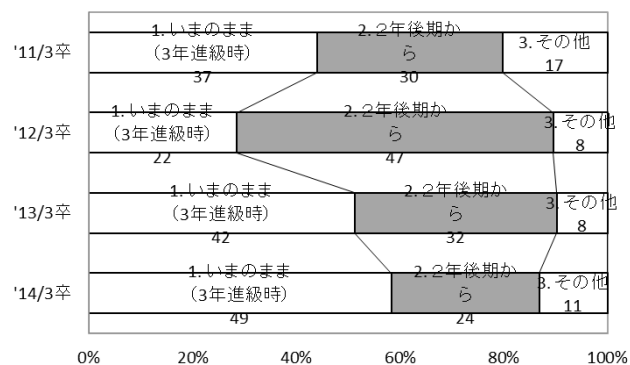
1. 思う
 2. 思わない
- 意見など：3件



- 素晴らしい環境にこれたと思います。
- 学びたいことを学ぶことができた。
- 社会に出て、自分の学んだ分野がどう生かせるか分らないし、まだ専攻分野について知らない分野や知識が多いので、何とも言えない。

(B6) 現在、3年進級時に教育プログラムを選択していますが、今かえりみていつがよかったですか。

1. いのまま (3年進級時)
 2. 2年後期から
 3. その他
- 意見など：17件



- 最初から
- 早く専門分野に集中できた方がよかったです。
- 早いほど良いと思う。
- 広く知識を身につけることができるとともに、考える時間があるため。
- 入学時に決まっていた方がよい。
- 2年の段階でほぼこの分野に行くか決めていたため、他の分野の講義をあまり受けなくなり、結構時間に余裕があったから。
- もっと早くから専門分野についてくわしく学ぶべきだと思う。
- もっと早くからレベルの高い勉強をしようと思った。
- 1年の終わり頃が良いと思う。3年時から専門分野を選択して勉強していたとき、他大学の学生との間に差を感じた。一方、選択分野を考えるため一定の期間は必要と考え、1年の終わりが良いと考えた。
- コロコロ変えるのはよくない。
- まず、そのカリキュラムを把握していない。

- 学部に在学するだけでも、ある程度専門知識・技術を身につけられるよう、もう少し時間が長くていいと思う（研究に費やす）
- 早くにこしたことはないと思います。専門をもっと深く学ぶには3年からは少し短いと感じました。
- 2年進級時が良いと思う。就職活動と卒業論文の両立は大変なので、2年時から、より専門分野の基礎固めが必要だと感じた。
- いつでもいいと思うが、教授や研究室の方々と接する機会は増々すべきだと思う。授業や実習だけではプログラムの選択には不十分。
- 研究室配属はもっと早くても良いと思います。
- 入学時からプログラムで分かれていた方がよいと思う。

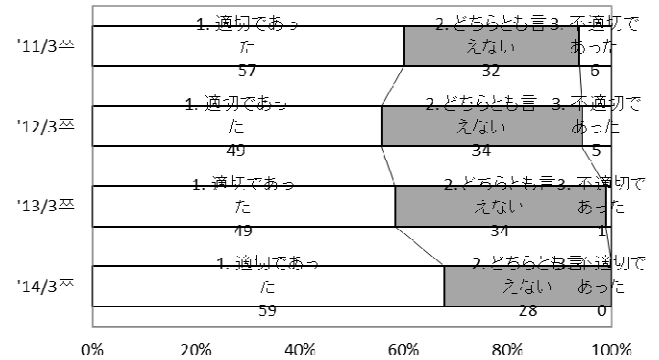
今年度に関しては、約65%が1年次終了から2年後期に専門分野を決めている。「入学前から」は1/3程度であり、大学1、2年次が専攻の選択に重要であることが伺える。専門分野の選択に関しては、ほとんどの院生が満足している。

選択の時期に関する問については、「いまのまま」が約6割と増加傾向にあり、「2年後期から」は減少傾向にある。今後の推移を見守る必要がある。

自然科学研究科での授業についてお聞きします。

(B7) 必修科目数と選択科目数の割合は適切でしたか。具体的な意見があれば、お書き下さい。

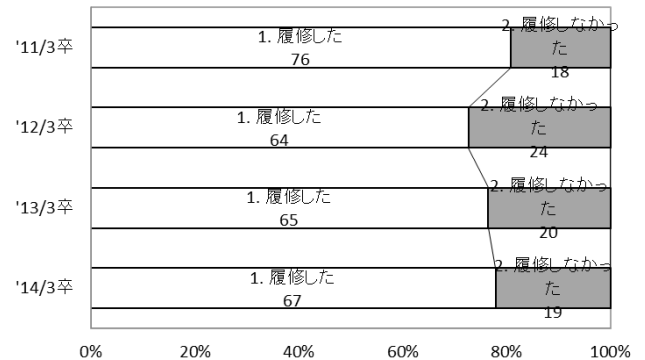
1. 適切であった
 2. どちらとも言えない
 3. 不適切であった
- 意見など：2件



- 必要な授業を受ければ良いというのが適切でした。
- 地学の場合、分野にバリエーションがありすぎるので、いろいろな分野をまたいで受講したいと思ったが、選択だと（選択科目が多かったので）自分の近い分野を選んでしまいがちなのはふり返るとよくなかったと思います。

(B8) 理学・数学専攻で他大学等の先生の集中講義を履修しましたか。履修した場合は、科目数もお書き下さい。また、集中講義に対して具体的な意見があれば、お書き下さい。

1. 履修した（科目数：回答数 65 件）
 2. 履修しなかった
- 意見など：5件



- 楽しかったです！
- 必要な単位数を満たしていたため。
- とても興味深い内容であった。
- 先生方の都合もあるのでしょうか、12月前後に多いのはやめてほしかったです。M1の時もM2の時も12月前後に長期調査で学校にいなかったのが困りました。まんべんなくできないでしょうか。
- ウィルスとワクチン（化血研）

必修と選択の割合については、約70%が「適切」としている。「不適切」の回答は0であった。また、集中講義は8割近くの院生が履修しており、大学院教育の重要な部分を担っていることがわかる。

(B9) 大学院の授業の中で特に有意義であった授業を挙げて下さい。

- 無機化学Ⅳの Fitting ・ 環境解析化学Ⅱ
- MOT
- ウィルスとワクチン (総合科学 A-4)
- 岡田清孝先生の集中講義
- 科学技術英語
- 学術論文のプレゼンをやった授業
- 可児先生の同位体分析に関する授業はわかりやすく勉強になりました。後、尾上先生の巡検も付加体を露頭で確認しながら解説があり、わかりやすかったです。
- 環境解析科学
- 環境解析化学Ⅲ (中田先生)。全授業が英語で、院で履修した授業で一番生徒と先生の距離が近く、双方向的なやりとりもあった。
- 環境分析
- 環境分析、集中講義
- 岩石反応循環論持論
- 群論
- 計算物性基礎論
- 計算物性基礎論
- 計算物性基礎論、固体電子論
- 高分子化学Ⅴ (小川先生) 自分の専門分野だったから。
- 固体電子論
- 自分の専門とする内容の授業
- 自分の専門の岩石・鉱物学関係の授業
- 自分の専門分野はもちろん、それ以外の授業も有意義であった。
- 集中講義、岡田清隆先生
- 修了要件外の MOT 特別教育コース
- ゼミ
- 先端科学特別講義Ⅰ
- ソーシャルビジネス概論
- 動物生態学特論・・・データ解析の手法を多く学べたから。
- バイオマスエンジニアリング 企業の話は面白い。理由は何事もお金と絡めて話すため、リアリティーのある授業だった。
- 光物性
- 光物性論
- 光物性論
- 微小領域物性物理
- 複素解析学、代数幾何学
- 物理化学

- プロジェクトゼミナール
- プロジェクトゼミナール
- プロジェクトゼミナール（公開セミナー） 生物でも色々な分野の話が簡単に聞けてよかった。
- プロジェクトゼミナール。分野を問わず最先端の研究に関する話を聞くことができたから。
- プロジェクトゼミナール。他大学や他の研究機関の方々の話を聞けるいい機会だったから。
- プロジェクトゼミナール：各先生がどのような研究をされているかが分り良かった。
- プロゼミ
- 分子遺伝学 I
- 分析化学
- 他大学の先生方から色々な話を聞けるプロゼミ等
- 他大学の先生の集中講義
- 他大学の先生をまねいての集中講義による研究説明。
- 無機化学
- 免疫学 実生活でも役立った。
- 有機化学
- 有機化学
- 有機化学
- 有機化学特論 I（石川勇人先生）
- 有機化学の授業
- 理学特別講義 B6 自らの研究と深く関わる内容であったため、非常に有意義な授業でした。
- 量子光学 I、量子光学 II、光物性論

(B10) 博士前期課程 2 年生で授業（特別研究やゼミナールを除く）を何科目履修しましたか。

科目数： 平均 2.6 科目（うち集中講義 平均 1.6 科目）

回答数 80 件

意見など：4 件

- 取り直しです。
- 必要な単位数を満たしていたため。
- 1 年の時に単位を落としたため。
- 論文を読んでレポートを書くだけだった。

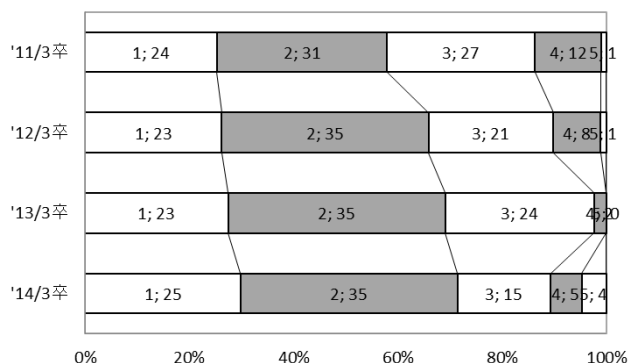
科目数としては 2-3 科目の学生が多い。10 科目履修している院生もいる。また集中講義に関しても 1~2 科目の学生が多いが、8 科目履修している院生もいる。

(B11) 博士前期課程のカリキュラムは如何でした

か.

1. 満足
2. どちらかといえば満足
3. どちらとも言えない
4. どちらかといえば不満足
5. 不満足

意見など：4件



- 自由に研究できました。
- 自分で時間をつくり研究活動を行うことができ、学会にも参加することができる。
- 新たな知識が学べる半面、本来大学で学ぶことを扱っていたので、多少忙しくなるうとも大学時に、大学院で扱う講義をやってほしかった。
- 他大学の院生と比べて、明らかに授業内容が薄いように感じている。
- 専門基礎が終わらないのは低レベルな教育。
- 中間報告で学内で研究発表する時に、参加していない教員が多すぎる。何の為の発表なのか理解に苦しむ。
- 結局、就職活動で半年以上つぶれた。
- 専門外の授業も履修せざるを得ず、あまり理解できなかった。
- 授業が、生徒の発表や論文を読んでレポートをなどでおもしろくなかった。
- 中退すべきであった。

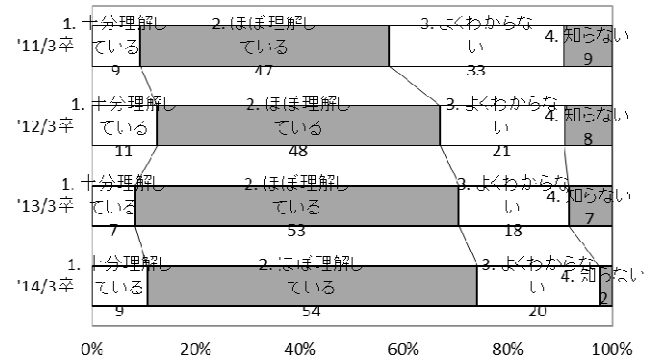
「満足」「どちらかといえば満足」の学生が7割近くおり、増加傾向にある。しかし少数ではあるが「不満足」も増えている。「どちらとも言えない」を含め「不満足」という回答を減らしていく必要があるだろう。

自然科学研究科の教育全般についてお聞きします。

(B12) 自然科学研究科の教育目的「総合的視野のもとに問題を解決し、広い分野で活躍することのできる高度専門職業人として育成する。」は理解していましたか。

1. 十分理解している 2. ほぼ理解している
3. よくわからない 4. 知らない

意見など：3件



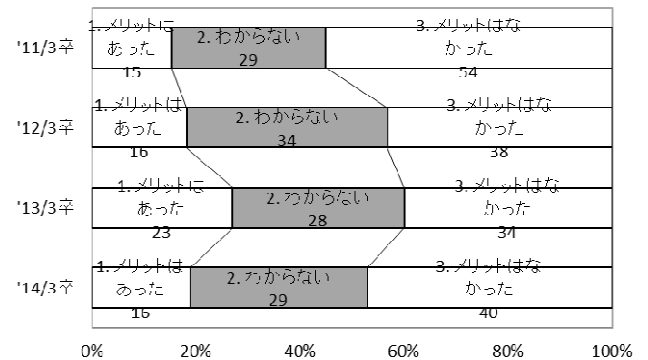
- 初めて知った。
- 教育目的にそった人材になるような教育をしているとは思えない。
- 指導教員にそのような考えがあるか疑問。

「十分理解」「ほぼ理解」が7割以上で年々増加傾向にある。一方で「よくわからない」も2割以上存在しており、今後も周知徹底などの対策が必要である。

(B13) 自然科学研究科は理学系の専攻と工学系の専攻からなる融合型の研究科ですが、その事のメリットはありましたか。

1. メリットはあった
2. わからない
3. メリットはなかった

意見など：6件

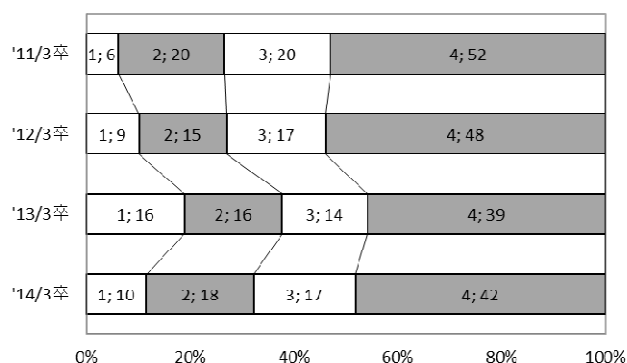


- 融合？交流の機会もないんですが。
- 関わりがないため。
- 工学系を専攻される方と関わり合いがなかった。
- 熊本は工学系が強いので、その恩恵はあるかも。
- 工学系の教授との関わり
- 工学の要素？どこにあったのか分からない。

「メリットはなかった」の率が増え、5割近くを占めている。その反面「メリットはあった」とする回答が減っている。

(B14) 工学系の専攻の大学院生との学術的交流はありましたか.

1. 工学系の大学院生と一緒に研究した
 2. 工学系の大学院生と一緒に授業を履修した
 3. 学術以外の交流があった
 4. 全くなかった
- 意見など：7件

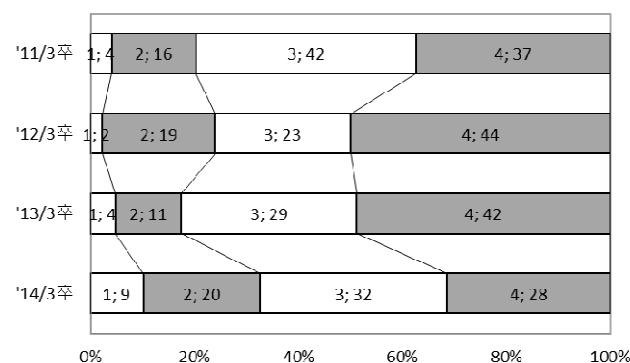


- まず職員が仲良くしないと交流なんて持てない。
- 関わりがないため。
- 友人との話など。
- 分析機器の使用などを通して
- 友人がいたので、互いの研究に関して雑談で話したのみです。
- 互いの実験設備を利用させてもらった。
- 学術的交流、共同研究などをもっと進めるべき。異分野同士の交流でこそ生まれるものもあるはず。

工学系の大学院生と何らかの交流がある院生が昨年度より減少している。特に一緒に研究した院生の数か減っている。(B13)と合わせ、今年度は工学系専攻との交流は余りなかったものと思われる。今後の推移を見守る必要がある。

(B15) 理学専攻の他コースの大学院生との学術的交流はありましたか.

1. 一緒に研究した
 2. 一緒に授業を履修した
 3. 学術以外の交流があった
 4. 全くなかった
- 意見など：4件



- プロゼミで合うくらい。友達はある。
- 学会等で他大学の大学院生との交流があった。
- 学会、また所属する専攻内で催されるイベントで交流があった。
- 研究機器をかりた。

理学専攻の中では他コースと何らかの交流がある院生は7割近くに増加している。「全くなかった」との回答は減っている。

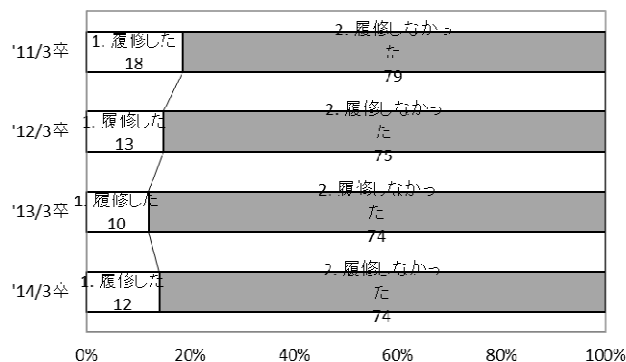
(B16) 他専攻（複合新領域専攻や工学系の専攻）

の授業科目は履修しましたか。

1. 履修した（科目数：回答数 12 件）

2. 履修しなかった

意見など：3 件



- 集中講義（物性）
- 履修して卒業単位になるのかどうかわからなかったため履修しなかった。
- 工学系のコンピュータ関連の授業は研究に役立った。

他専攻の授業を履修した院生は少なく、実質的に専攻を超えた授業の履修はほとんど行われていないと考えられる。

(B17) 全専攻共通科目のうちコース指定のない科目

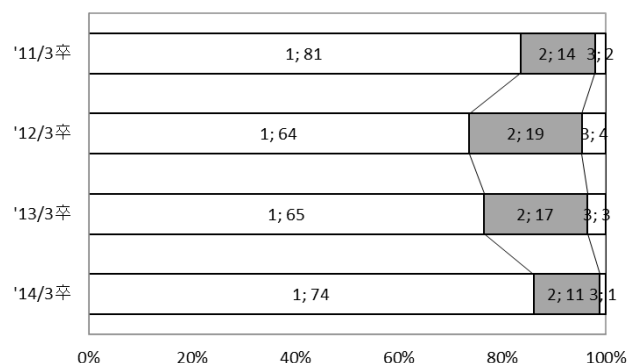
（プロジェクトゼミナール、特別プレゼンテーション、科学英語演習など）は履修しましたか。

1. 履修した（科目数：回答数 69 件）

2. 履修しなかった

3. 知らなかった

意見など：0 件



8 割以上の院生が履修しており、プロジェクトゼミナールの履修などが定着していると思われる。

(B18) 全専攻共通科目のうち産官学連携、国内大学院

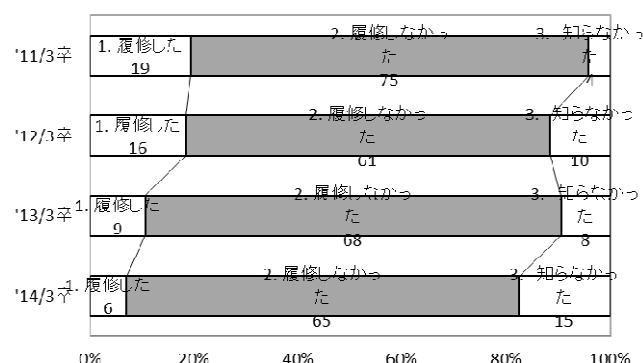
連携、国際共同教育、MOT（総合科学 A～C など）は履修しましたか。

1. 履修した（科目数：回答数 5 件）

2. 履修しなかった

3. 知らなかった

意見など：2 件



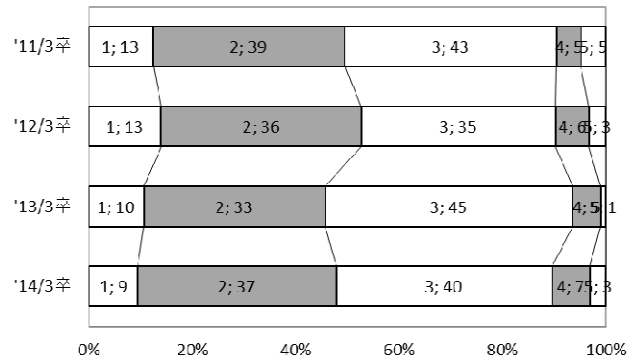
- 大学院の講義で、最も有意義だった。
- アナウンスが分かりづらい。メール通知では不十分だと思う。

(B17)と対照的に履修した院生の割合は年々減少傾向にあり、「知らなかった」が増えている。今後、

アナウンスの方法などを検討する必要がある。

(B19) 自然科学研究科の全面英語化計画（グラシウス計画）による授業の英語化について意見をお聞かせ下さい。（複数選択可）

1. 全て英語が良い
 2. 専門用語は英語が良い
 3. 基礎的な内容は日本語が良い
 4. 全く必要ない
 5. その他
- 意見など：7件

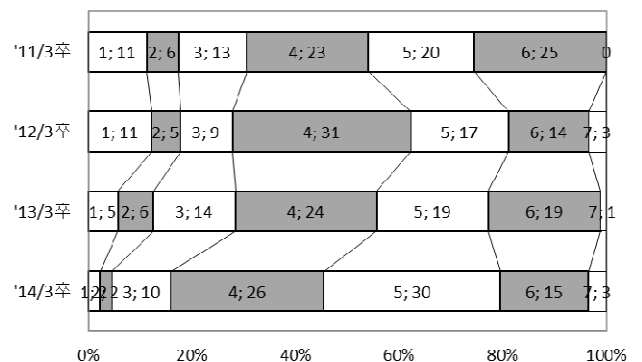


- 論文等が英語なので、ある程度の英語の能力は必要だと考えている。
- 英語ができる人を育成する前に、誰にも負けない専門家を育む方が良い。
- するのはいいことだと思うが、学部からその計画をしないと意味がないし、それを公表するなら大学入学時点で限られた人材しかこないと思う。
- 内容理解と英語能力の向上の両面をうまく両立させることができれば素晴らしいと思う。
- 英語力の向上を実感した。
- 一部授業で全面英語の授業があっても良い。

過去4年間、若干の変動はあるものの同様の結果であり、「基礎的な内容は日本語が良い」とする院生が多い一方で、「全て英語」「専門用語は英語が」と答える院生が4割以上いる。大学院教育における英語の使い方を検討すべきだろう

(B20) 学部・大学院の6年間の中で勉学意欲が最も上がったのはどの時期ですか。

1. 1年次
 2. 2年次
 3. 3年次
 4. 4年次
 5. M1
 6. M2
 7. その他
- 意見など：6件

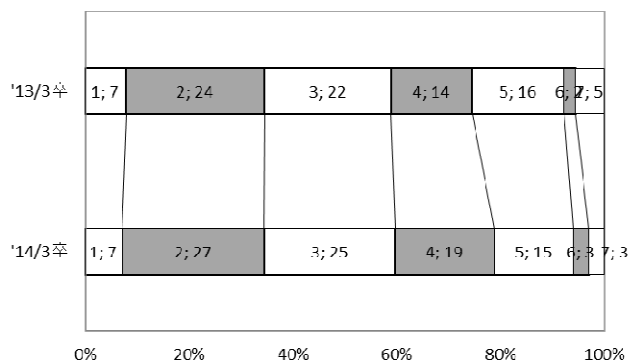


- 研究楽しい。
- 研究室に配属されて、より意欲が高まった。
- コースが分れてやりたいことに尽力できる時期であったため。
- 数学、物理、化学を専攻しており、専門分野間のつながりが分かったから。
- 6年次
- 1、2年次。多く授業を受けていると、その分レポートなどの負荷も多いが、刺激も多い。高校の延長線上。

今年度に関しては、「4年次」「M1」が多い。やはり研究室で研究を行うようになってから、勉学意欲が上がっているものと思われる。一方で「1年次」「2年次」が減少傾向にある。入学後の勉学意欲をどう高めるかが今後の課題となろう。

(B21) 振り返ってみて、学部・大学院の6年間で、いつの時期にもっと学修しておけば良かったと思いますか。

1. 1年次
 2. 2年次
 3. 3年次
 4. 4年次
 5. M1
 6. M2
 7. その他
- 意見など：3件



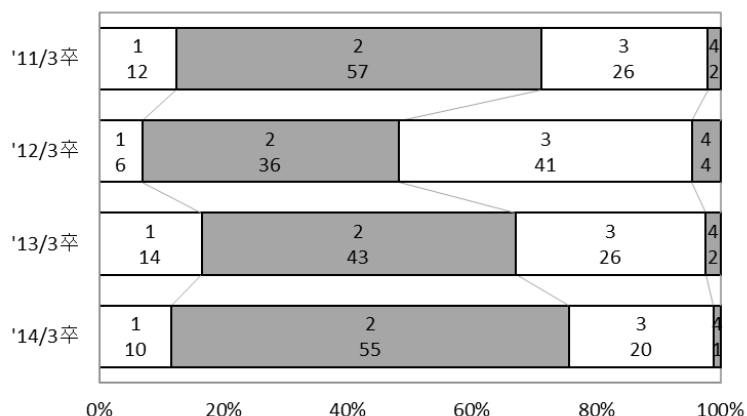
- 線形代数、微分積分は大事です。
- 無駄な必須科目の為ですけどね！
- 就職活動で研究等に集中することができなかった。

昨年度とほぼ同様の結果であり、大学2、3年次に学修しておくべきだったという回答が多い。

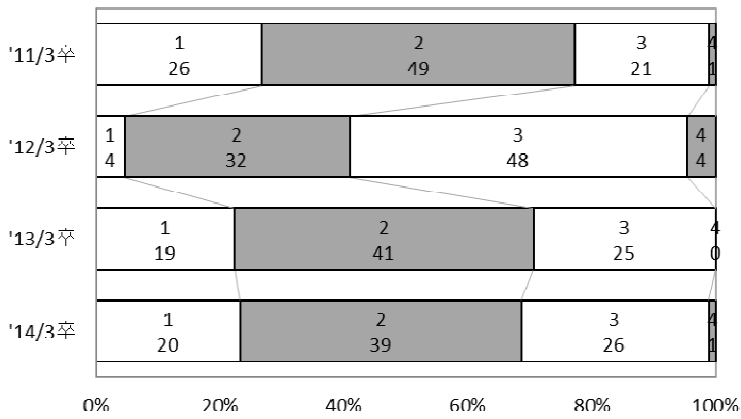
(B22) 学部・大学院の6年間の履修を通してどのような力が身に付いたと思いますか。それぞれの項目に関して、次の4段階で回答してください。

1. よく身に付いた
2. ある程度身に付いた
3. もっと身に付けたかった
4. 全く身に付かなかった

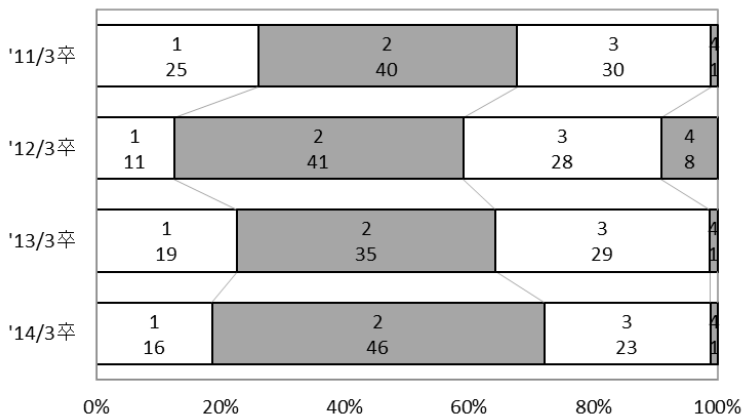
a. 教養・基礎学力：



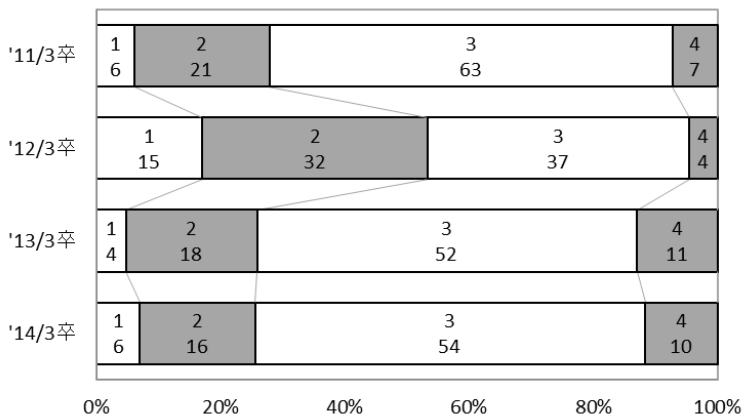
b. 専門知識 :



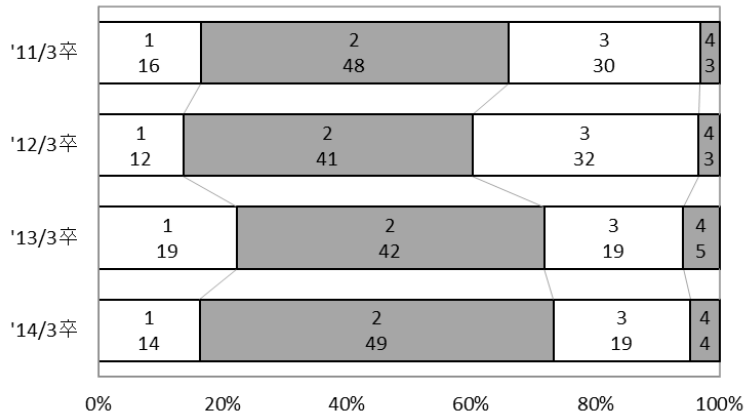
c. 技術・技能 :



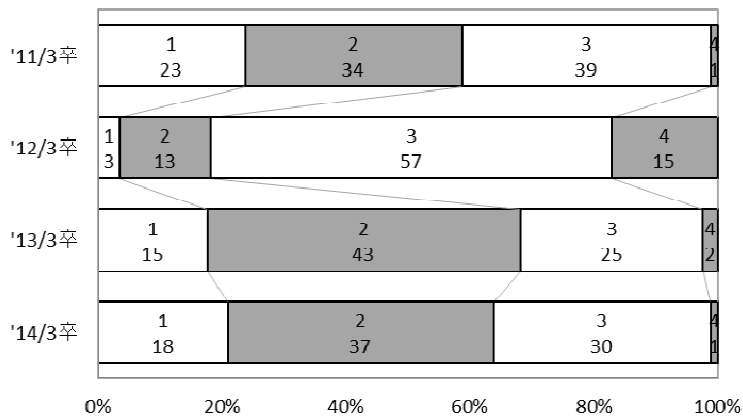
d. 英語を含めた外国語運用力 :



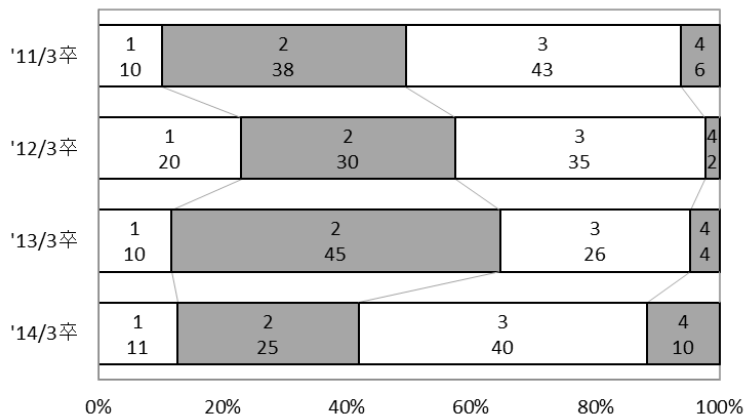
e. 一般的なコミュニケーション力 :



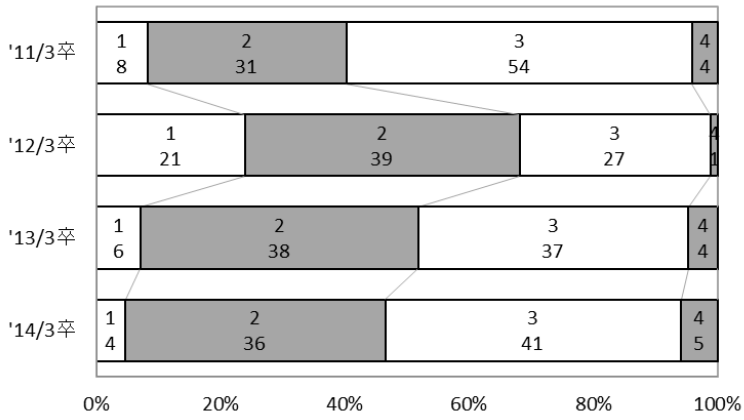
f. プレゼンテーション力 :



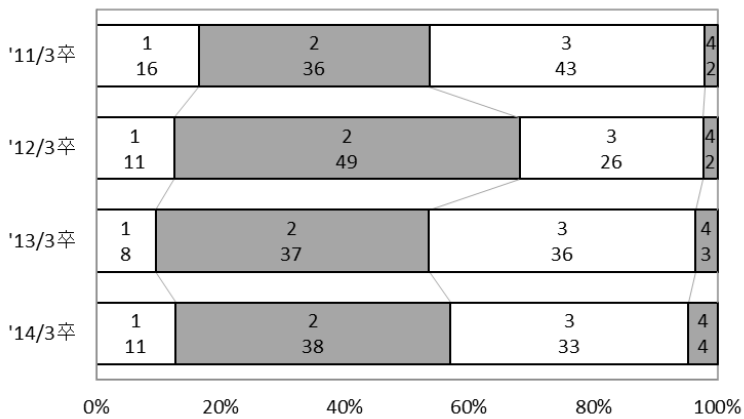
g. IT リテラシー・コンピュータ操作能力 :



h. 独創性・発想力：



i. 課題発見・解決力：



意見など：1件

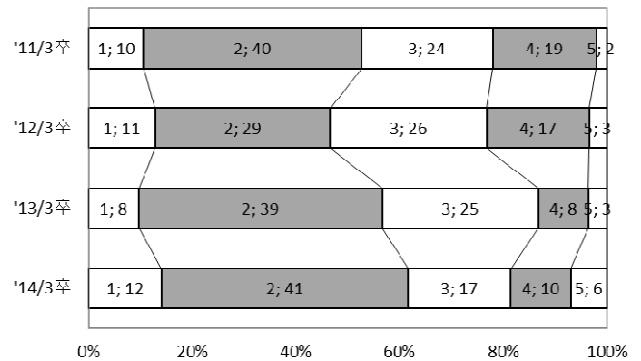
- プレゼン力が一番役に立ちました。

全体的な傾向は昨年度と同様だった。一昨年度だけが少し異なる傾向を示していることについては、次年度の結果も踏まえて分析が必要かもしれない。

(B23)博士前期課程を修了するにあたり、修士としての専門能力が身に付いたと思いますが、自己評価として満足していますか。

1. 満足
2. どちらかといえば満足
3. どちらとも言えない
4. どちらかといえば不満足
5. 不満足

意見など：4件



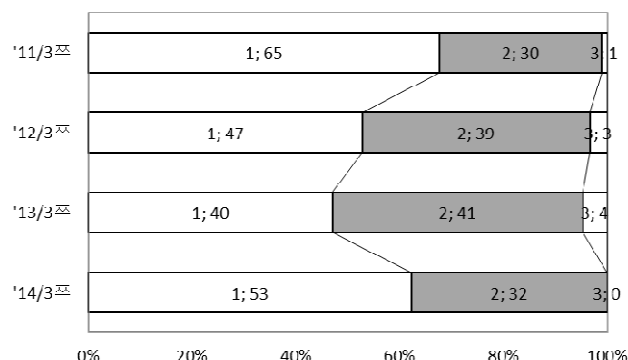
- もっと色々な条件で研究したかった。
- 一生勉強です。
- 大学院側に不満があるわけではなく、自分の努力不足を最近痛感したため。
- 中退すべきであった。

「満足」「どちらかといえば満足」が約60%で増加傾向にある。一方、「どちらとも言えない」も含め「満足」していない院生が4割程いる。理由についてもっと詳細な調査が必要かもしれない。

修士論文の研究および研究指導体制やシステムについてお聞きします。

(B24) 修士論文の研究に平均としてどれだけ費や
しましたか。

1. 毎日
 2. 週の半分ぐらい
 3. ほとんどしなかった
- 意見など：1件

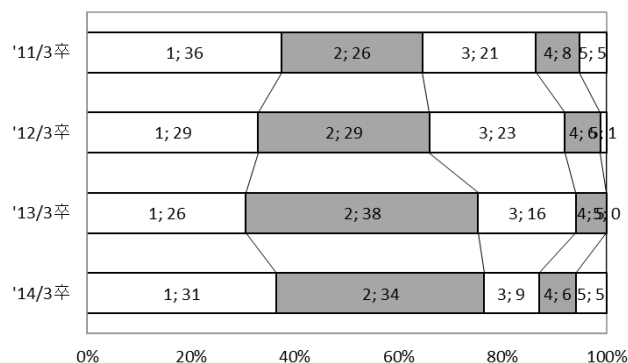


- 毎日以外あるのが驚きだ。

「毎日」とする学生が約6割であり、昨年度と比べ増加した。しかし週の半分以下しか研究に使っていない学生も4割近くおり、就職活動との兼ね合いが大きいと思われる。次年度より就職活動の時期が変更となるので、今後の推移を見守る必要がある。また設問が毎日か半分しかないので、「3/4程度」も必要かもしれない。

(B25) 大学院での研究指導体制に対して満足して
いますか。

1. 満足
 2. どちらかといえば満足
 3. どちらとも言えない
 4. どちらかといえば不満足
 5. 不満足
- 意見など：7件



- 自身の研究に対しては非常に良かったです。
- 自主性が大事であると考えているため。
- 担当教授の指導方針に依存する。
- 教授の選び方を考え直すべきでは？実績があるからといって良い教育者になれるとはかぎらない。
- 指導教員による指導は、ほとんどなし。必要な実験に必要なと意見も聞かず、計画性のない目的不明の実験をおしつけては失敗におわる。
- 指導はほとんどなく、機能していなかった。

「どちらかといえば満足」以上の回答が8割近くとなっている。一方で昨年度は0であった「不満足」な院生数が多くなった。今後は、「どちらかといえば不満足」を含め「不満足」を減らしていく努力が必要であろう。

(B26) 研究を継続する上で役にたった項目（中間発表、学会発表、セミナーなど）があれば記述して下さい。

項目：55件

- 中間発表 13件
- 学会発表 32件
- セミナー(ゼミ) 8件
- M1、M2での中間発表。締め切りに間に合わせるために、若干のメリハリが生活に付いたので。
- 学会・卒論・修論
- 学会に参加することで研究に必要な情報を手に入れることが出来た。
- 学会発表、研究会は役に立った。他の教授がどのように考えているのか、色々な考えを聞いたこと。
- 学会発表などに積極的に参加できるシステムがほしい（学部生の学会参加時に、指導教員の同伴がなければ学会参加の費用がおとせないところの改善など）
- 学会発表は研究のモチベーションの維持に大いに役立った。
- 学会発表をすることで、今までの研究成果のまとめを行う機会になった。
- 学科での中間発表の位置づけがよくわからない先生方の中で意見がわかれるくらいなら、する意味がないと思う。そうしないと学生もなっとくできない。
- 中間発表は、研究内容の整理・内容のより深い理解、プレゼンテーションの仕方を学ぶ、という点で役に立ったと思う。
- 中間発表は、これまでの研究を整理する上でとても重要。
- 中間発表は研究の進行状況を明確にできよかった。
- 中間発表は研究のモチベーションを継続するという点で良かった。
- 特に学会発表では学内外の研究者とディスカッションを行うことで研究に非常に役に立った。

中間発表や学会発表などの発表を挙げたものが多かった。セミナーおよびプロゼミも多い。発表することが研究に対するモチベーションの上昇に繋がっている。

C. 修了後の進路について

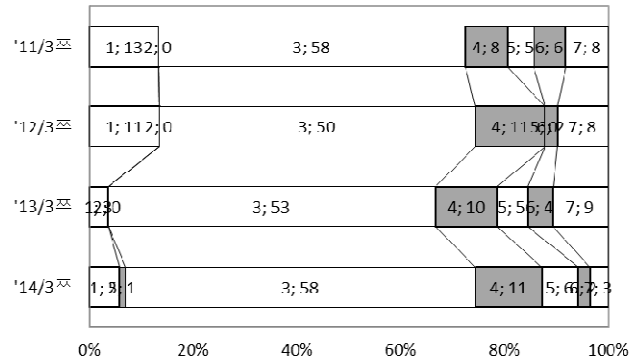
(C1) あなたの4月以降の進路は何ですか.

大学院博士後期課程へ進学

1. 熊本大学 2. 他の大学

就職

3. 民間企業
 4. 教職（非常勤および臨時採用を含む）
 5. 公務員 6. その他の就職先
 7. その他（進学・就職以外）：3件



例年ほぼ同様の傾向で、民間企業に就職する院生が多い。教職や公務員も大学院生の進路として一定数あることは、重要である。

(C2) 大学院博士後期課程に進学する人にお聞きします。進学をいつ決めましたか.

時期：6件

中学生

3年後期

学部4年次

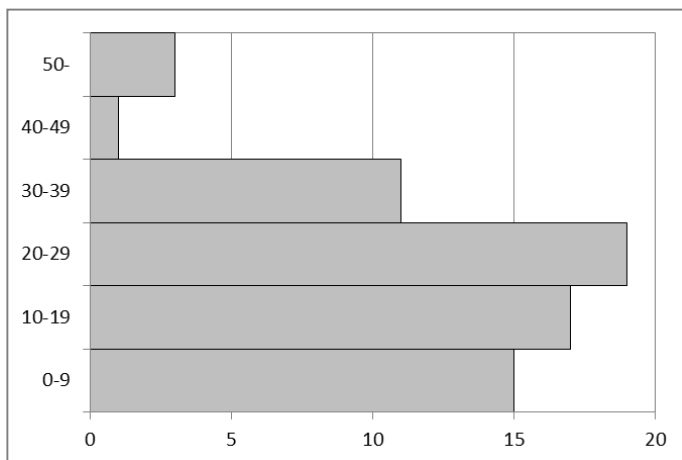
M1の冬ごろ（2名）

修士2年中頃

就職活動をした人にお聞きします。就職活動をしなかった人は(D1)に進んで下さい。

(C3) 就職活動（面接や企業訪問など）のため、企業を何回訪問しましたか.

回数：66件



ピークは20-29回にあるが、0-19回、30回以上という院生も多い。

(C4) 就職活動をおこなった期間はいつですか.

開始時期	人数
H23/12	3
H24/1	2
H24/9	1
H24/10	2
H24/12	36
H25/1	15
H25/2	4
H25/3	1
H25/4	4
H25/12	1

終了時期	人数
H24/5	1
H24/6	1
H24/7	1
H24/8	1
H25/3	3
H25/4	8
H25/5	17
H25/6	10
H25/7	10
H25/8	3
H25/9	3
H25/10	3
H25/11	1
H25/12	4
H26/4	2

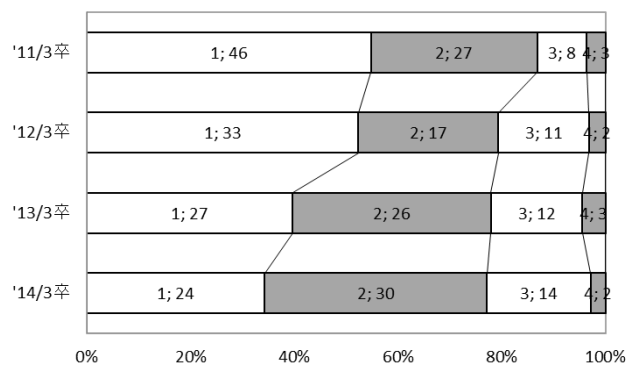
意見など：4件

- 春の学会後に本気を出した。
- ほぼ国家公務員の試験勉強
- 就職先未定
- 営業職を希望していたため、わりと早くから活動していた。

就職活動の開始時期は、M1の12月からM2の1月であることがわかる。一方、終了時期はもう少し広く分散しているが、大体M2の4-7月である。遅い人では、M2の年末や26年という人もおり、就職活動期間の長期化が懸念される。次年度より就職活動の時期が変更となるので、今後の推移を見守る必要がある。

(C5) 就職活動のため、大学院の授業や研究に参加できないことによる影響はどの程度ありましたか。

1. かなりあった
 2. 少しあった
 3. あまりなかった
 4. 全くなかった
- 意見など：5件

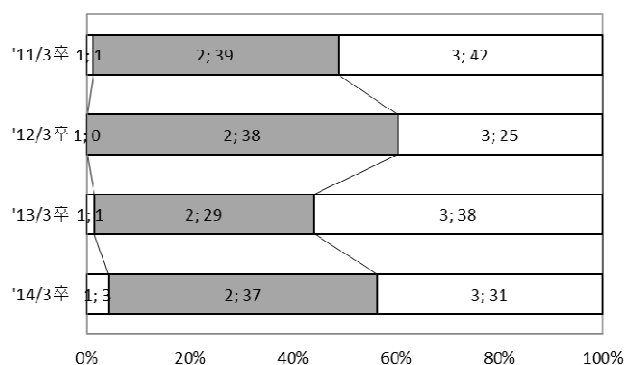


- タイミングが合って、ほとんど問題なかった。
- 研究が溜る時期があった。
- ES や面接、説明会などが連日入っていたので、全く実験・分析が進まなかった。
- 就職活動が4月からに変更になるようですが、それなら卒業してから活動した方が良いと思う。
- 時間がない

(C4)の結果から、就職活動が授業や研究に影響があることは容易に予想される。実際、(C5)の結果は、「かなりあった」が減少傾向にあるものの、「少しあった」を含めると8割近くに達している。熊本大学だけではなく、日本の大学全体の大きな課題である。

(C6) 現在理学部では特定の企業に対して学部長推薦の枠もあります。利用しましたか。

1. 学部長推薦を利用した
 2. 学部長推薦があることは知っているが利用しなかった
 3. 知らなかった
- 意見など：2件

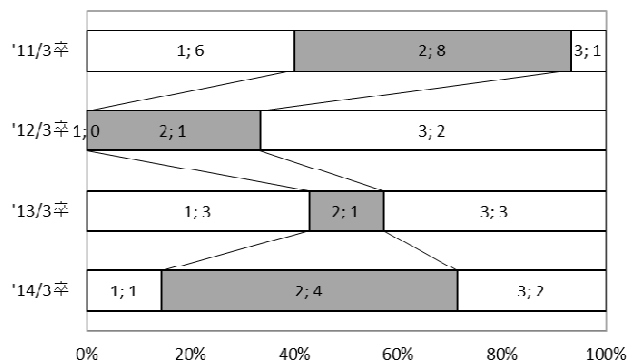


- 志望する企業がなかった。
- 推薦をもっと充実させてほしい。

学部長推薦を利用した人は、今年度は3名に増えた。今後も周知を徹底するとともに、就職支援の充実を進める必要がある。

(C7) 大学院で学外特別演習（インターンシップ）を履修した人にお聞きします。（教育インターンシップも含まれます）卒業後の進路を決める上で役立ちましたか。

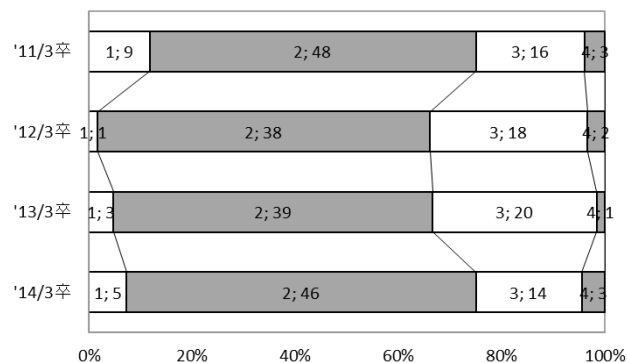
1. 役立った
 2. どちらとも言えない
 3. ほとんど役立たなかった
- 意見など：0件



今年度は「どちらとも言えないが」が多く、「役に立った」という回答が1名であった。しかし全体の数が少ないので年度ごとのぶれが大きく、結果分析は困難である。

(C8) 就職相談・キャリア支援の体制および情報には満足でしたか。

1. 大いに満足である
 2. 満足である
 3. 不満足である
 4. 大いに不満足である
- 意見など：11件



- 少しわかりやすく掲示した方がよい
- 学内説明会にはお世話になりました。
- 何度も利用させていただきました。
- 利用したことはないが、相談できることは良いことだと思う。
- 先輩たちの進路先の探し方がよく分らなかった。どこに就職したのか分かるようにしてほしい。
- 全学科対応のキャリア支援のみではなく、理系研究職に特化したキャリア支援が受けられるとより良いのではないと思う。
- ほとんどリクナビやマイナビを利用していた。
- あまり役に立たない。案内も古いままかわらないことも多い。
- 学内説明会で同業種が同時帯にあると聴くことができない。就活講座は一般的な事ばかり説明し、熊大でしか聴けないという事が少ない（＝無かった）。これでは他大学との差別化を図れず、普通のESしか書けない。さらに学生の危機感が足りない。
- 院生活中で完全にやる気を喪失した。従って、就活意欲、引いては支援の仕組みを使う気もなかった。卒業後に進路は考える。
- 利用していない

「満足である」の割合が7割以上と、昨年より上昇した。今後も推移を見守る必要があるだろう。

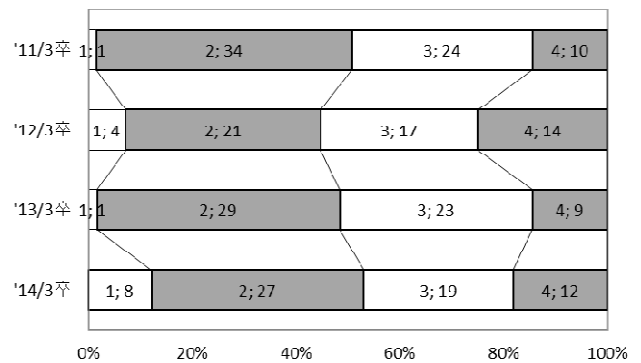
熊本大学理学部理学科を卒業した人にお聞きします（該当しない学生は (D1) に進んで下さい）.

(C9) 就職活動で数学・理科の専門基礎を幅広く学

んだことが役に立ちましたか.

1. 採用の決め手となった
2. ある程度役にたった
3. どちらもとれない
4. 役に立たなかった

意見など：4 件



- 公務員試験の筆記で大いに役立った。
- 公務員試験で役立った。
- 中退すべきであった。時間を 2 年間失った。

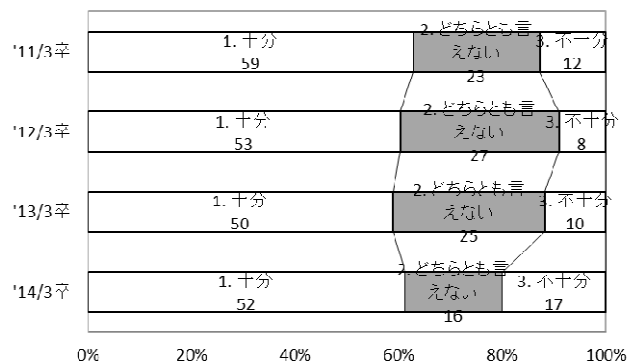
「採用の決め手となった」、「ある程度役にたった」は 5 割以上であり、ある程度の評価を受けている。一方、半数近くの学生は価値を見いだしておらず、今後検討する必要がある。

D. 学習環境や学生生活について

(D1) 自主的に学習できる場所や施設は十分ですか。
必要なものがあれば「自由記述」に挙げて下さい。

1. 十分
2. どちらとも言えない
3. 不十分

意見など：14 件



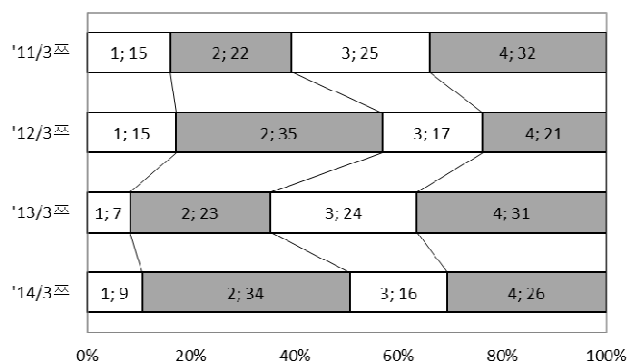
- 研究室。学部生には足りないんじゃないだろうか。教室は広すぎるし。
- 研究室や図書館があるため。
- 図書館が改修工事中だった。
- もっと文献がほしい
- フリースペースが少ない
- 実験室と学生居室は別に必要だと思う。
- 寝る場所がない。徹夜で研究ができない。
- 地学は良いが、人数の多い化学などの学生でまだ研究室に配属されていない人たちが空き部屋を探してうろついているのを見かける。
- 自習室がほしかった。学部時代は。
- せまい
- 理学部に自習スペースがなく、不便。特に小講義室。どうにかして下さい。めいわくです。
- 図書館に専門書を増やしてほしい。
- パソコン室を利用しやすくしてほしい。(時間外では学生証を用いても棟に入れない)
- 24 時間利用できる教室があったら良いと思いました。

「十分」が 6 割であるが、「不十分」も 2 割程度いる。自由記述では自習室という意見が見られた。

(D2) 在学中は、学生生活を続けていく上で、経済的な問題がありましたか。

1. ほぼ全期間にわたってあった
2. 時々あった
3. 少しだけあった
4. 全くなかった

意見など：5 件

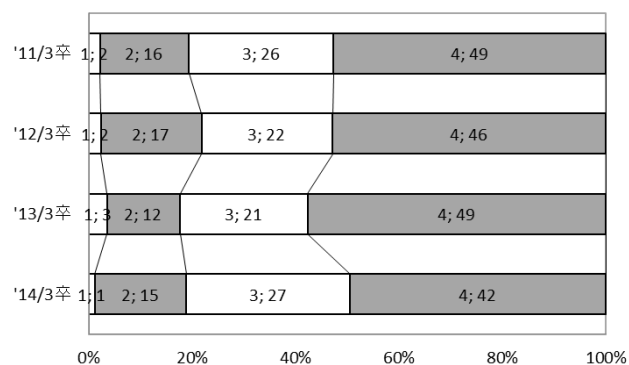


- バイトしてないだけです。

- 奨学金を受けていたので、+バイトをすれば生活はできた。でも、就活に20~30万円使ったので、親に借金をした。
- 奨学金のおかげで在学できた。
- 研究でバイトをする時間もない。
- 学費が高い。免除がなければアルバイトが必要となり、研究時間に問題を生じた。

(D3) 在学中は、教員や学生との人間関係で問題がありましたか。

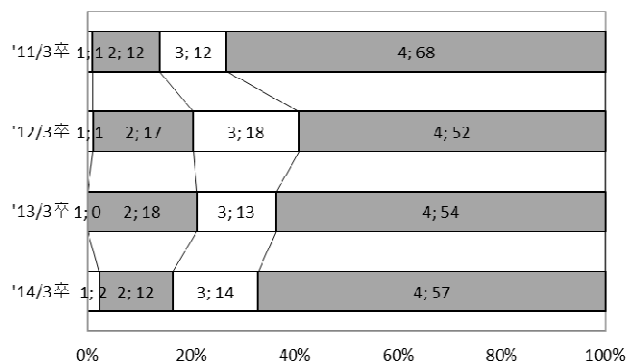
1. ほぼ全期間にわたってあった
 2. 時々あった
 3. 少しだけあった
 4. 全くなかった
- 意見など：2件



- 仲良かったです。
- 非常に助けられた。

(D4) 在学中は、住居の条件や環境に問題がありましたか。

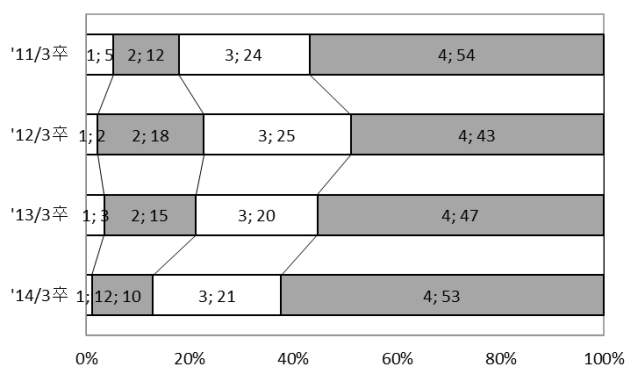
1. ほぼ全期間にわたってあった
 2. 時々あった
 3. 少しだけあった
 4. 全くなかった
- 意見など：0件



今年度は、経済的な問題が「時々あった」とする院生の割合が一昨年並みに増えた。経済的な支援の検討を進める必要があるだろう。また、人間関係の問題は例年同様の傾向を示しており、「時々あった」が2割近くいる。対応する窓口の周知など更なる対応の充実が求められる。住居・環境も2割近くで問題が「時々あった」としており、これからの院生への対応策が必要である。

(D5) 学生生活を続けていく上で健康面に問題がありましたか。

30

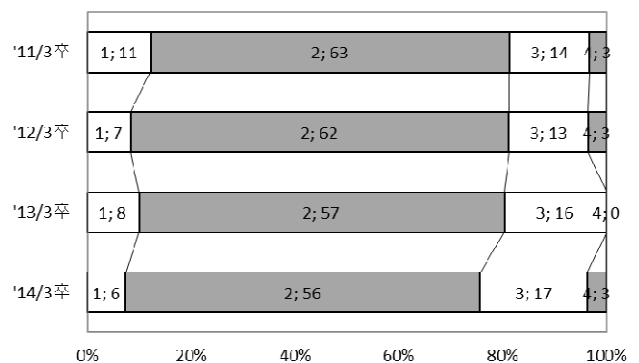


1. ほぼ全期間にわたってあった
 2. 時々あった
 3. 少しだけあった
 4. 全くなかった
- 意見など：2件

- 風邪とか。ノロウイルスに感染したり。
- 椎間板ヘルニア

(D6) 健康相談の体制には満足できましたか。

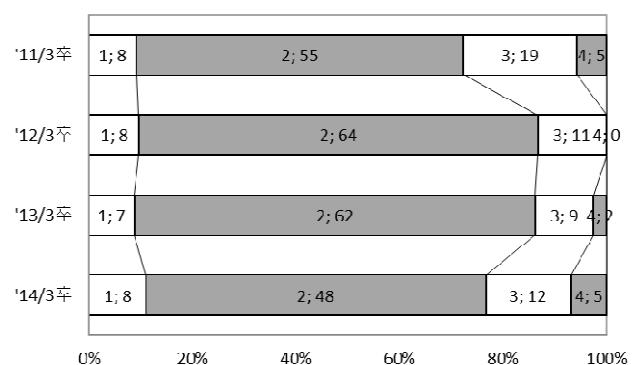
1. 大いに満足である
 2. 満足である
 3. 不満足である
 4. 大いに不満足である
- 意見など：4件



- 近く（学内）にあるだけでも嬉しい。
- カウンセリングで臨床心理士の方と精神科の方にお会いした。臨床心理士の方は問題なかったが、精神科の方は私の発言内容が分からないと苦笑して首をかしげる仕草が見られた。私の話し方にも問題があったと思うが、誰にも話せない悩みを打ち明けているときにそのような対応をされ、嫌な気持ちになった。また、受付の方も「臨床心理士」と「精神科医」の違いが分からなく、初めはどちらに相談すれば良いか分からなかった。
- そもそも相談の仕組みがあることを知らなかった。
- 利用していない

健康面に問題が「時々あった」院生の割合が減少してはいるものの、未だ1割以上おり、これらの院生に対する策を検討する必要がある。相談体制に関しては、「満足」している院生が若干減少したものの8割近くとなっており、現状の満足度は高い。

(D7) 各種ハラスメント相談の体制には満足できま



したか.

- 1. 大いに満足である
- 2. 満足である
- 3. 不満足である
- 4. 大いに不満足である

意見など：12件

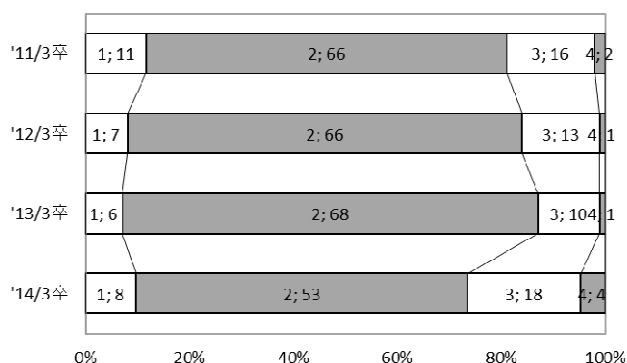
- ハラスメントされたこと無いけど。
- 存在を知らなかった
- 利用したことないのでわからない
- ハラスメント対策が積極的であるとは言い難い。
- 利用したことがないため、分らない。
- 使用しなかった
- 利用したことがない
- どういう体制があったのか知らない。
- 対応するのが内部の人では意味がない。利用されているのかが表にあらわれない。
- 相談していないので評価できない。
- 悩んでいる友人が多かったが相談しやすい場が無いように思われた。
- 利用していない

「満足である」が 8 割を占めているが、「大いに不満足」が増加傾向にある。今後の推移を見守る必要がある。

(D8) 授業・学習支援・生活支援を含む熊本大学の学習環境全体の満足度についてお聞きします。

- 1. 大いに満足である
- 2. 満足である
- 3. 不満足である
- 4. 大いに不満足である

意見など：6件



- 事務の人にはたびたびご迷惑をおかけしました。ありがとうございます。
- 部屋がせまく、実験スペースが不十分。
- やる気のある先生とそうでない（ように感じられる）先生の差がひどすぎる。
- 地学は事務の方が親身になって研究を支えて下さるので大変良かったです。そのような職の方が今後残ること（他学科にもいない場合は導入されること）を期待します。
- 支援等は満足。しかし、駐輪場の数が足りず通学環境では難があった。

- 生物は分子と多様性に分かれているが、オムニバス形式の授業のとき、多様性の先生方は分子専攻の生徒に配慮した授業を行うのに対し、分子の先生方は多様性専攻の生徒への配慮がなく、授業内容やレポートが難しかったので、もっと多様性分野の生徒への配慮をしてほしい。

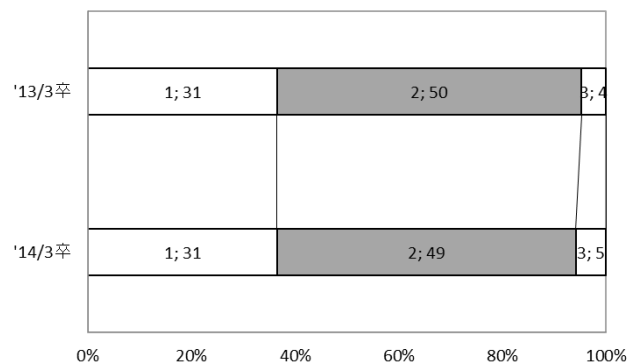
環境全体に関する満足度は7割近くになっているが、「不満足」が増加している。どのような不満があるのか自由記述からは読み取れず、各コースごとの更なる調査が必要かもしれない。

E. 授業改善アンケートおよびシラバスについて

大学院の授業に関するシラバスについてお聞きします。

(E1) シラバスは良くよみましたか。

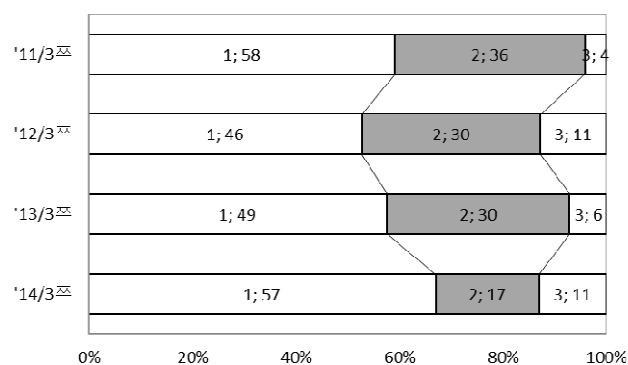
1. 良く読んだ
 2. 真剣には読まなかった
 3. 見ていない
- 意見など：3件



- 分野ごとにまとめるのはいいけど、前期の授業と後期の授業を混ぜてのせるのは止めろ！
- 基本的に、先生と先輩から受けるべき授業については聞いて決めていた。
- シラバスと内容が異なることが多々あったから。

(E2) 履修する科目を選択する際にシラバスは役立ちましたか。

1. 役立った
 2. どちらとも言えない
 3. ほとんど役立たなかった
- 意見など：3件

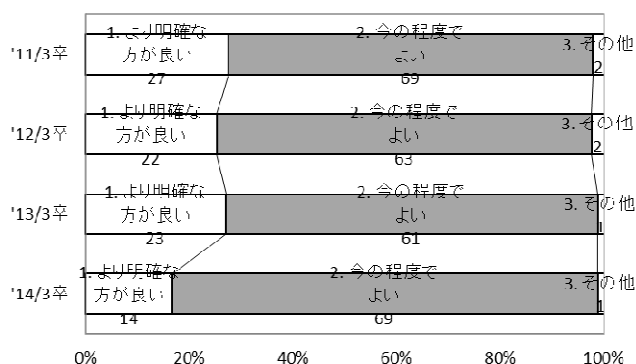


- 授業内容や単位条件は非常に役に立ちました。
- もう少し簡潔な文章にしてもらいたい。
- シラバスを適当に書いている人がいるから。

昨年度と同様、シラバスは「真剣には読まなかった」が、履修科目の選択には「役立った」院生が多い。大学院の授業においてもある程度シラバスが利用されていることがわかる。一方、「ほとんど役に立たなかった」が1割以上いる。次年度からの全学的なシラバス入力システムの変更が今後どのような改善に繋がるか、推移を見守る必要がある。

(E3) シラバスの成績評価の方法はもっと明確なものが良いですか。

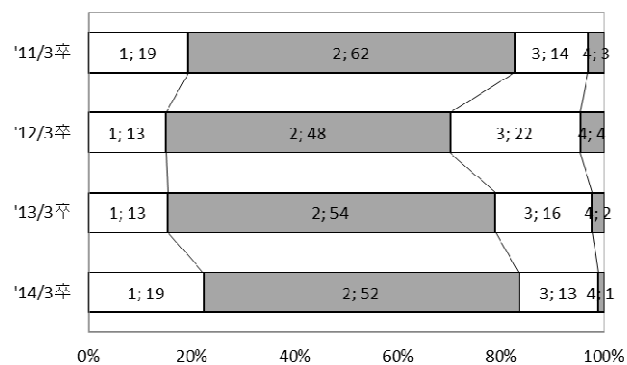
1. より明確な方がよい
 2. 今の程度でよい
 3. その他
- 意見など：2件



- 明確にしすぎると融通がきかなくなる。
- テストの点数を重視した方が、より多くの学生が勉強すると思う。

(E4) 全体的に、シラバスに記載された方法で厳格な成績評価が行われていると思いますか。

1. 行われている
 2. 多くの科目で行われている
 3. あまり行われていない
 4. その他
- 意見など：1件



- 講義を担当する先生によって異なる。

(E3)では「今の程度でよい」が 8 割程おり、(E4)では厳格な成績評価が多くの科目で行われているという評価である。大学院の授業の成績評価であるので、成績に対する院生の意識がどの程度であるかを検討する必要があるだろう。

- 学部時代に読んだが、コメントしていない教員が多い。意味があるとは思えない。

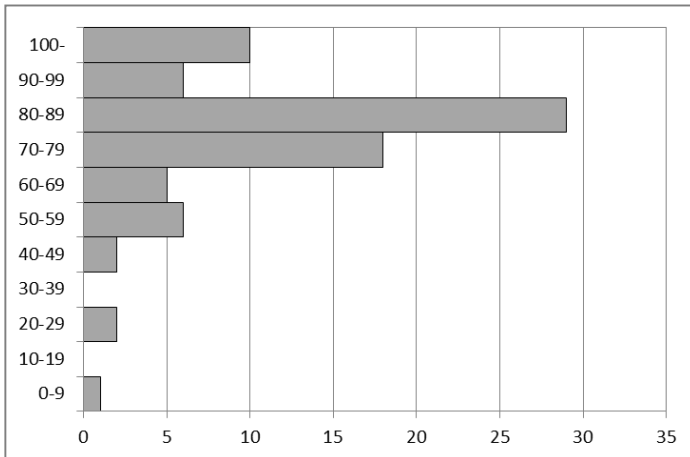
教員のコメントはほとんど読まれていないことがわかる。この割合はシステム的な問題と思われるので、システムの改善が望まれる。

F. 総合評価

理学専攻に対する評価をお聞きします。

(F1) あなたの理学専攻に対する評価・満足度を 100 点満点で点数をつけて下さい。

点数：(回答数 79 件)



意見など：14 件

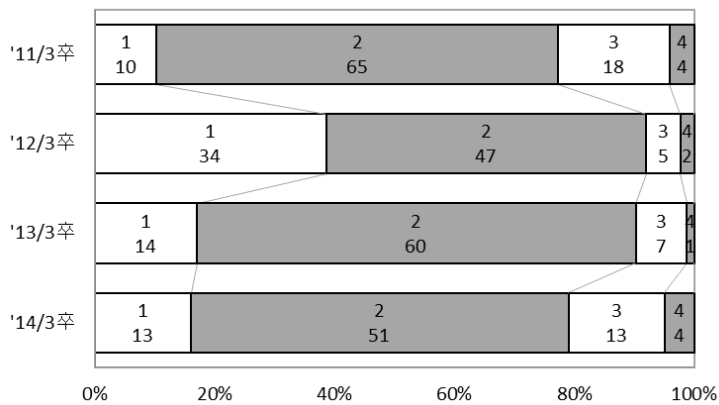
- やりたいこと。やってよかったことだった。
- 論文による発表に至らなかったため
- 研究室での予算不足が問題となり、非常に苦勞した。
- 非常に満足
- 知識・技術ともによく身につけることができた。
- 満足している
- 人数の比率に対して、規模が小さいので広げてほしい。
- 他大学では学部までに終了する専門科目が熊大では大学院でも終わらないのはダメ。
- 専攻に満足はしているが、努力が足りないので頑張らないといけない。
- 専門教育の授業が少なかった。
- 先生方も研究する体制もすばらしいと思います。もっと幅広い分野の授業を受けて勉強したかったの
で、時間がなかったことに関して-15 点くらい。
- (大学院の) 授業がイマイチでした。それだけです。研究については大いに満足しています。
- 興味を完全に失ったので。
- 好きなことを専門として学ぶことができ、その内容に関係する仕事につくことができた。

80-89 点をピークとして、100 点も多くいる。概ね満足していると感じる院生が多いことがわかる。

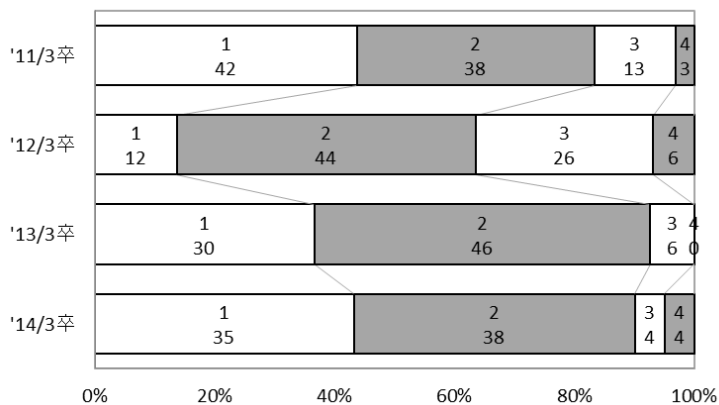
(F2) 理学専攻の評価項目に関して次の4段階で回答して下さい。

1. 大いに満足である
2. 満足である
3. 不満足である
4. 大いに不満足である

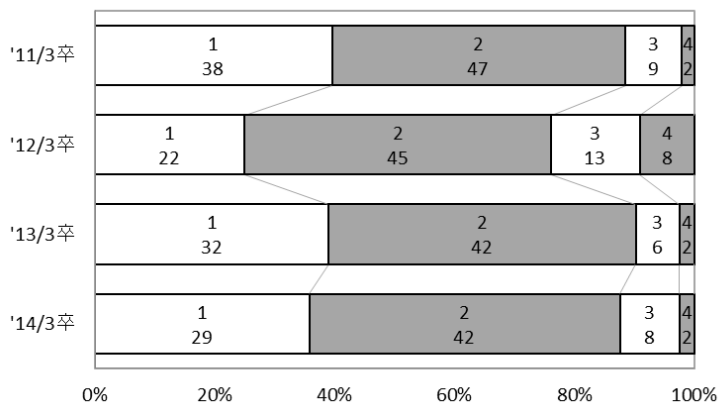
a. 授業科目の開設状況：



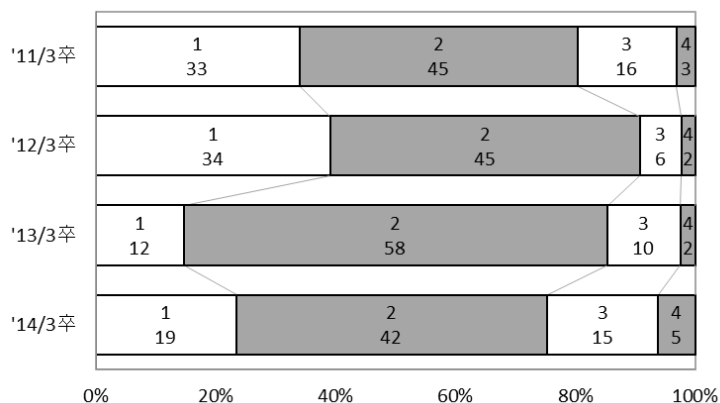
b. 修論等の指導：



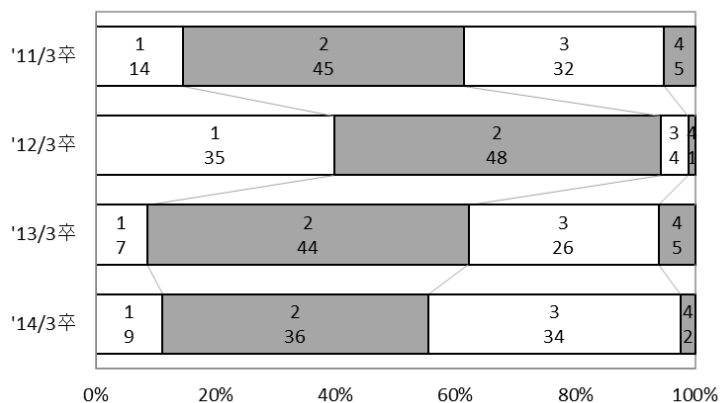
c. 研究室等での人間関係：



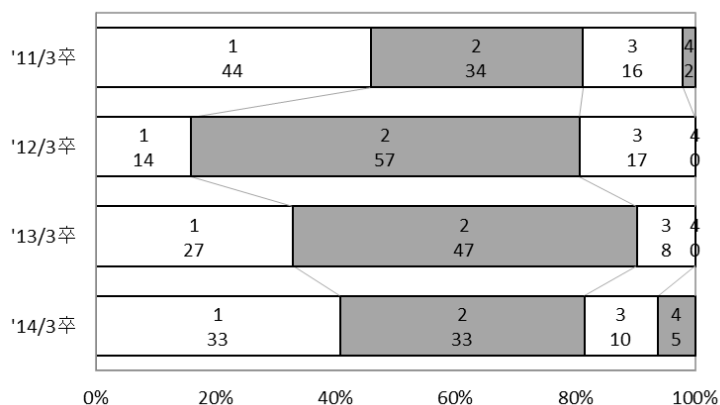
d. 施設や図書等の勉学環境：



e. 国際交流：



f. 教職員等の熱意・対応態度等：



意見など：8件

- 先生、今までありがとうございます。
- 研究室への海外からの訪問者。
- f.に関してだが、自分で選択した研究室なので覚悟を決めて勉強していたが、指導教員に研究室のメンバーの面前で精神的に追いやられたり、勉強に関係のない過去の事例やプライベートな事まで言われた事が多数ある。私はそんなに気にしない方なので大丈夫だが、参ってしまう人も実際に目にした。

指導に熱意があることがわかるが、「伝え方」はもう少し全体的に改善してほしい。

- f.教職員等の熱意・対応態度等について、人により異なる。噂では大学に来て出席印を押し、すぐ帰宅する先生もいると聞く。一度、全体的に確認した方がいいと思う。
- 指導教員への専門的、人格、人間性の不信感、疑問がたまるばかりであった。
- 教員に指導する力量があるか疑問。論理的思考がなく、面白いという理由だけで実験をおしつける。また自分の意見が通らないと、無理におしとおす。議論の時間も生産性がなく進歩がない。またセクハラととられてもおかしくない行動、言動が多く問題がある。加えて、人の話を聞かず、人の気持ちを考えないことも多く、精神的に追い込まれる学生もいる。指導方法等のガイドラインの作成や生徒への、教員へどのような案内が行っているのか知らせる必要があると思う。
- 理学部での自習室を増やしてほしい。(土、日、平日の夜)
- 総じて、学部どころに院に進学する動機付けをもう少し考えておくべきであった。今、院にいるのは完全な惰性である。20代の貴重な時間を大学で無駄に過ごしてしまったことを死ぬほど後悔している。20代半ば以降はもう少し有意義に過ごすことを誓う。

ほとんどの項目で「満足」が8割前後を占めている。ある程度充実した学生生活を送ったことが推測される。しかし国際交流の項目で満足度は低く、今後の課題であろう。また自由記述において、少数であるかも知れないが指導教員に対するコメントが見受けられ、今後の対策が必要となろう(個人の特典できるコメントについては、十分な検証ができなかったので、掲載を見合わせた)。次年度から就職活動時期が変わることで研究活動などへの影響がどう変わるかも注目すべき点であろう。また気が早い話であるが、学部入試も英語が加わり、英語での授業に対する意識がどう変わるかも興味深いところである。学生意識が今後どのように変わっていくのか、アンケート活動を続けることで明らかにしていく必要があるだろう。